

54【街の散策からの気づき発見】

「両国駅・江戸東京博物館 散策」

会員 K.T.

「リニューアルされた江戸東京博物館を見学しよう。」、ということになった。平日、通勤時間帯を避けて、春日部駅 9:00 準急長津田行 ⇒ 9:09 せんげん台 ⇒ 錦糸町駅 9:52 着 ⇒ 徒歩 ⇒ JR 錦糸町駅 総武線乗換 10:04 三鷹行 ⇒ (1 駅) 両国駅 10:06 着 ⇒ 徒歩 ⇒ 江戸東京博物館、10:15 前後を目安に 1F チケット売り場付近に集合、見学時間約 3 時間、昼食会 13:15~14:30 後、14:30 頃解散、解散後は自由行動。イレギュラー連絡は携帯。恒例の現地集合・現地解散・各自実費負担方式としている。

両国界隈には、いろいろ散策場所がある。国技館・相撲博物館、旧安田庭園、すみだ北斎美術館、回向院、本所松坂町公園(吉良邸跡)、隅田川遊歩道(隅田川テラス)等、昼食会解散後の夕方通勤時間帯前までの約 2 時間は各々自由散策とした。

久しぶりの両国駅になる。“両国”という名称は文字どおり二つの国という由来からである。江戸時代、隅田川を挟み、武蔵国(現東京都)と下総国(現千葉県)があった。隅田川の西側は両国、日本橋両国、東日本橋と変遷、他方東側は向両国、本庄東両国、両国と変遷した。“両国”という名称は、隅田川西側の武蔵国側であった。川向こうは、下総国で東両国・向両国といわれていた。その後、「両国」の名称は、東側へ移動した。

余談ながら、「両国」の名称の話が続ける。明治 11 年(1878) 東京市 15 区が創設された。隅田川の西側は日本橋区の日本橋両国、東側を本所区日本橋となった。明治 37 年(1904) 両国橋駅が開業(昭和 6 年・両国駅に改称)、明治 42 年(1909) 初代・両国国技館が開館され、「両国」という地名は、東両国を指すようになった。現在の東京都 23 区は、戦後、昭和 22 年(1947) に制定された。現墨田区もこの時に旧本所区と向島区が合併して誕生した。

今日は、このような歴史変遷のあった「両国」にいる。私共は、両国といえば、お相撲、国技館がある場所、というイメージがある。現在の国技館は 3 代目で、昭和 60 年(1985)、JR 両国駅の旧貨物駅跡地に建てられた。江戸東京博物館は国技館の隣にある。開館前の敷地は東京都の水道局や職員住宅の跡地だったらしい。この博物館の建設趣旨は、「江戸東京の歴史を守り、東京の歴史と文化を振り返り、未来の東京を考える博物館」、として平成 5 年(1993) 3 月 28 日に開館した。開館後、平成 26 年(2015) から翌年(2015) 3 月 28 日まで改修工事で休館、令和 4 年(2022) 4 月 1 日から約 4 年間、大規模改修工事のため全館休館し、今年、令和 8 年(2026) 3 月 31 日に、リニューアルオープンをした。建物はメンテナンスが必要だ。

このリニューアルオープンを個人的には、心待ちにしていた。私ごとになるが、江戸東京博物館は思い出がある。過去、芸術を体系的に学びたいと思い、リカレント教育(学び直し)で、京都造形芸術大学(現・京都芸術大学) 通信学部に入學した。その年に当時、N 講師(現教授)の『日本文化の源流を探る』の科目を選択し、「日本の文化を視覚的に学ぶところとして、『江戸東京博物館』があるので課外学習でいきましょう。」、という課外授業があった。それで、2018 年、江戸東京博物館の学習会に参加したのが最初になる。『江戸・明治・大正・昭和の歴史と文化を視覚的に学ぶには、確かに、いいところだ』、と思った記憶がある。その後は、2020 年の特別展『大浮世絵』を個人的に見学したのが最後になる。コロナ直前だった。その後、コロナ感染症の 3 密(密閉・密集・密接) 推奨対策が 2020 年 3 月から 2023 年 5 月まで、約 3 年間続いた。現在、コロナパンデミック事件は、「喉元過ぎれば」の感があるが、世界の経済活動に大打撃を与えた事件だった。『時のたつのは早いものだ。』、このようなことを思い出しながら、両国駅から江戸東京博物館へ向かった。



江戸東京博物館・全景



両国駅界隈(墨田区観光協会)